

CONTENTS

COMBAT

2012.Jul.
No.436

7

Cover Design
Raidensha(Hidetaka Koyanagi),
Cover Photo
Yushina Yasuji (WPP)
©WORLD PHOTO PRESS 2012



【第1特集／米軍最新装備特集】

019 アフガン装備 完全セット 米国陸軍一般部隊 最新官給装備一式

●写真/横田徹 ●文/fujiwara

【第2特集／実銃特集】

070 超初心者向け! はじめてのゴム実弾射撃ガイド・射撃編 H&K P7M8

●Photos&Text by Taku

【第3特集／トイガンレポート】

014 速報!! 第51回静岡ホビーショー

056 WESTERN ARMS COMBAT COMMANDER SEECAMP CUSTOM K SIGHT Ver. DX

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

004 NEW GENERATION STYLER OPERATION SFOD-D PROFILLE 2

●by:fujiwara

018 Hot Toys ビデオゲーム・マスターピース「メタルギア ソリッド3 スネークイーター」 1/6スケールフィギュア ネイキッド・スネーク (スニーキング・スーツ版)

036 トイガンニュース

- 036 東京マルイ ガスブローバック・コンパクトマシンガンMP7A1
- 038 東京マルイ ガスブローバック M9A1
- 039 東京マルイ ガスリボルバー S&W M19&M66
- 040 東京マルイ ハイスイクルカスタム PC90 HC
- 042 CAW コルト M1860 アーミー
- 043 WA SFAローデッド・チャンピオン・オペレーター
- 044 WA エクスペンダブルズ1911/リ・ボーン
- 044 WA コルト・ディフェンダー
- 045 WA L.A.ヴィッカーズ・カスタム
- 045 WA ベレッタM92FSハート・ロッカー/バトル・ダメージ
- 045 WA ベレッタM92FSブリガーディア/アイノックス

046 GOODS & ACCESSORY

053 DeAGOSTINI

隔週刊 コンバット・タンク・コレクション

054 カプコン最新ゲーム「重鉄騎」速報

060 WESTERN ARMS

PROPERTY SERIES

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

068 COMBAT Recommend Movie



076 サーいじ技研スピンオフ企画

史上最強防水バッグを検証せよ!

●Photos&Text by Tomoyuki Orimoto

079 にっぽんのちからこぶ特別編

「駐屯地祭のあるき方」

●取材/菊池雅之

085 Militaria Roundup!

軍用フラッシュライト&簡易ストーブ

●取材/菊池雅之

096 サープラスいじり技術研究所

●写真・文:橋本知之

130 The Equipments of the U.S. Force

【現用米軍装備カタログ】第91回

RLCS Part.2 レンジャー部隊&特殊部隊に納品されたレンジャーグリーン迷彩装備

●解説:松原隆(高知ボンバース) ●撮影:山崎学

074 世界の兵士図鑑

大日本帝国海軍の軍装 その③ 下士官と士官の軍装および第三種軍装

●イラスト・解説:坂本 明

142 PRESENT

184 S&Grafグッズ

186 中田商店グッズ

097 GAME OVER THE TOP!

物欲ワンホール

Round 10: 射撃鍛錬のパディ:シューティングタイマー

レア・ミリタリー・テクノロジー

ミリタリー雑学講座

ミリタリー・コレクション

112 幻妖中隊 #mod.11 ●by FUJIWARA

114 '2012 浅草ブラックホール

116 こちら神保町軍装店

117 A STITCH IN TIME

118 MGストーリー ~小峯隆生のできるまで~

119 蛙のゆびさき(中山 蛙)

122 トイガンズジャンクション

124 バックナンバリスト

161 新連載!!

162 読んで覚える TakuのHOW TO Shooting 射撃のススメ

164 帰ってきた 狩野健一郎の[監督、そこにおっぱいは必要ですか!]

166 アメリカGUN事情 Guns Talk from US

168 ヒストリカルゲーム

DAK2012・南イタリア/チュニジア戦線in岩船山

170 狩野健一郎のシネマ放浪記

171 狩野健一郎の新作DVD紹介

172 コンバットマガジン・インフォメーション・センター

174 自衛隊式 運動会

「第1師団武装走競技会」「第1師団小隊長等戦技競技会」

175 読者プレゼント応募方法

176 編集後記



速報!! 第51回静岡ホビーショー

Photos & Text by Taku

東京マルイ、オドロキのニューモデルを続々発表!!



静岡は古くから模型の街として知られている。バンダイをはじめ、大小の模型メーカーがこの地に居を構えていることからそれが判る。この模型の街では、年に1回、全国よりメーカーや出版社などが集まり、日本一の展示会が開催される。それが今回紹介する『第51回静岡ホビーショー』だ。

日本全国より、大小71社ものプラモデル、ラジコン、鉄道模型のメーカーが集まる中、我々トイガンユーザーが注目するのは、もちろん「東京マルイ」のブースである。

近頃の東京マルイは、ホビーショーの開催される数日前にHPでニューモデルに関する情報を発表するのが通例となっている。今回も、開催日の数日前より製品のクローズアップカットが掲載され、ユーザーの間では新製品を予想するなど、話題になっていた。

何といても今回の東京マルイ・ブース一番の話題作はガスブローバックエンジンを搭載した『MP7A1』だろう。多くのガスブローバックハンドガンに世に送り出してきた東京マルイだが、サブマシンガンはメーカーとして初のモデルアップなのだ。これを機に、マルイでもサブマシン

ガンやアサルトライフルといったガスブローバックのバリエーションが展開される可能性も期待できるのではないだろうか。

この他にも、ガスブローバックハンドガンの『M9A1』、24連射機能を持つ『M19&M66』、ハイサイクル電動ガンの『PC90 HC』『電動ブローバックハンドガンM9A1』に電動ガンBOY's『SCAR-L CQC』『固定スライドガスガンシリーズ』などなど、書

き上げるだけでこんなに長くなってしまふほどのトイガンのニューモデルを発表した。従来から発売しているモデルのバリエーションも展開しつつ、まったく新しいジャンルの製品を生み出す東京マルイの企業としてのパワーにはいつものことながら感心させられる。やはり我々マニアの心を裏切らないメーカーだ。

トイガンの他にもニューモデルは発表された。好評を博しているラジコンからは、ミ

広いイベントスペースには日本国内の代表的なメーカーが新製品などの展示を行なった。



今回、東京マルイが発表した新製品の中でもっとも注目されていたのが、新型ガスブローバックエンジンを搭載した『MP7A1』だ。

40連射マガジンは、タンク容量もたっぷり冬場でも快適なブローバックを実現する。装弾数も40発なら充分だろう。



久々の24連射ガスリボルバーの最新モデル『M19 & M66』も量産モデルに限りなく近い状態で展示されていた。



そしてもうひとつの注目株が、完全新規設計により進化したM92Fシリーズの最新モデル『M9A1』。バリエーションではなく完全ニューモデルである。

リタリーヘリシリーズとして『APACHE』と『BLACK HAWK』の2機種、そして1/5スケールバイク『STREET RACER』を発表。どちらもいつでも発売できるところまで開発は進んでいるようなので、近日中には店頭に並ぶことだろう。またトイガン以外のニューモデルの中でもっとも驚かされたのが、1/35スケールの『完成城郭シリーズ』だ。

第1弾は日本一の美しさと名高い『姫路城』である。この城郭シリーズが実によく作り込まれている。城郭はもちろん、石垣堀、周囲の木々に渡るまで緻密に製作されているのである。キットではなく完全完成品で、箱から出せばそのまま飾れるというのもこのシリーズの魅力のひとつといえる。


大方の予想では、今回のホビーショーで次世代電動ガンのニューモデルが発表されるのではないかとされていたが、残念ながら今回は発表されなかった。ただ、東京

マルイのブーススタッフに話を伺ったところ、発表する新製品の数があまりにも多く、今回は断念したモデルがあったという。どんなモデルかは教えていただけなかったが、もしかすると、その断念したモデルが実は次世代電動ガンのニューモデルだったりするのかもしれない。そんなことを想像するだけで、秋に幕張で開催される「プラモデルラジコンショー」が待ち遠しくなってしまう。

こうしたイベントは、新製品の情報を得られるだけでなく、貴重な情報交換の場としても重要である。ユーザー同士はもちろん、メーカーの人に話をする貴重な空間なのだ。東京に住んでいるユーザーには、静岡は少々遠いかもしれないが、秋には幕張でプラモデルラジコンショーが開催されるので、足を運んで最新情報をゲットして欲しい。



ハイサイクル電動ガンシリーズには、新たに『PS90 HC』が加わった。スラリと延びた長いバレルとフラッシュハイダーが特徴だ。

A US Army soldier in full combat gear, including a helmet, goggles, and a tactical vest, stands on the steps of a military vehicle. The soldier is holding an M4-style rifle. The background shows a clear blue sky and a mountain range. The text is overlaid in the center of the image.

米国陸軍一般部隊 最新官給裝備一式

米国陸軍一般部隊 最新官給装備一式

TEXT : fujiwara PHOTO : 横田 徹 油科康司(WPP) 協力 : 中田商店、NCO RYAN

マルチカム！マルチカム！マルチカム！
マルチカムしかないんだぜっ。
完全引き継ぎ完了の陸軍一般装備一式、
現在こんなセットで支給のようです。

隊員ひとりにつき、段ボール数箱とウェア類ゴッソリといったカタチで支給される米国陸軍一般部隊個人装備一式。今回とある陸軍一般部隊兵士に支給されたばかりの最新装備セットを、誌面にて紹介することに成功。ここまで揃った状態は正直中々お目にかかれない。

今回のものはいわゆるM4A1ライフル射手に与えられるライフルマンキットで、2009～10年あたりからの支給スタイル。装備のメインであるタクティカルギアは、何度となくマイナーチェンジされて改良されてきたMOLLE IIとなる。

何といてもひと目で気付かされるのは、ACUで使われたユニバーサルカムフラージュのアイテムがまったくなく、どれもマルチカムで統一されているという点だ。陸軍制式採用迷彩の引き継ぎが完全に終わったことを物語る。今後は両迷彩が混在していた環境からマルチカム一色となるわけだ。

サバイバルゲームでの用途は正直微妙なものも多いが、マニアならコレクションとしてぜひとも一式揃えたいもの。キモはタグにある。これがあってこそ官給品の証明となるわけだ。

WESTERN ARMS

COMBAT COMMANDER SEECAMP CUSTOM K SITE Ver.DX

ウエスタン アームズ ☎03-3407-5922 <http://www.wa-gunnet.co.jp>

●Photos & Text by SHOTDUN MARCY



【コンバット・コマンダー/
シーキャンプ・カスタム
Kサイト・バージョンDX】

- 全長：198mm
- 銃身長：95mm
- 重量：約800g
- 装弾数：21+1発
- 予定価格：¥45,150
- 5月末WA 渋谷店限定発売予定



Kサイトに合わせた背の高い
ランプ・フロント・サイト。セッ
ト位置もやや前に移動し、スラ
イド前面に合わせられている。



ガバメントフリークの イメージにぴったりの シーキャンプ・バリエーション。

昨年末の発売以来、究極のM1911A1バト
ル・モデルとして好評のシーキャンプ・カ
スタム。先進的なメカニズムを内蔵した
1970年代のカスタム.45だ。ウエスタン
アームズ（以下：WA）では、1970年代の人
気カスタム・パーツをふんだんに組み合わ
せた高級仕様でモデルアップ。日本に紹介
されたスタンダード仕様とは少し雰囲気
の違うモデルになっていた。もともとカス
タム生産されたモデルなので、パーツの選
択は自由なのだが、往年のファンは日本に
紹介されたS&Wのマイクロメーター・クリ
ック・アジャスタブル・リアサイト、つま
りKサイト仕様のベーシック・バージョンに
よりシーキャンプのイメージ強く感じるこ
とだろう。そんなファンの気持ちに応えた
のが、今回登場するWA純正樹脂グリップ

装備のシーキャンプ・カスタム“Kサイト・
バージョン（¥39,900）”と、ヘレッツ・グ
リップ付きの“Kサイト・バージョンDX
（¥45,150）”だ。

L.W. (Ludwig=Louis Wilhelm) シーキ
ャンプは、ドイツのガンスミス。第2次世
界大戦後にアメリカに移住してショットガ
ン・メーカーのモスバーグに就職し、1971
年にガバメントのダブルアクション・メカ
ニズムで特許を取得して退社。1973年に
L.W.シーキャンプを創設した。コマンダー
をダブルアクションに作り替えたカスタム
は、最盛期で年間200挺程度が製作された
という。受注生産が基本のカスタム・ガン
としては、まとまった数が市場に供給され
ていたことになるが、ハンドガンの需要が多
く、国土も広いアメリカで年間200挺はき
わめて少ない。公用機関に勤務する人、つ
まりプロのシューターたちの間で人気があ
ったため、作る端からユーザーの手に渡り、

“幻”のカスタム・ガンと呼ばれるようにな
ったわけだ。シーキャンプについてもっと
詳しく知りたいという人は、L.W.シーキ
ャンプのホームページ（<http://www.seecamp.com/>）にアクセスしてみよう。

ガバメントは、とにかく煩雑な操作を必
要とする。1970年代にコンバットシュー
ティングが普及してから現在まで、コック
& ロックが携帯の基本スタイルになってい
るが、ホルスターから抜く時、ターゲットを
ポイントする時、ターゲットからマズルを
外すスキャン・ポジションなどで、サムセ
フティのON/OFFを頻りに繰り返さな
ければならない。しかも、確実さと安全性、ス
ピードが常に求められる。命がけの状況で
これをきちんとこなすのはきわめて難しい。
なぜこんな扱いをしなければならないのか、
理由は簡単。ガバメントがシングルアク
ションのセミオートだからだ。

にもかかわらず、ガバメントの人気は高



超初心者向け! はじめての **H&K P7M8** グアム実弾射撃ガイド 射撃編

●Photos & Text by Taku ●撮影協力: GOSR (グアム・アウトドア・シューティング・レンジ) / URL: <http://www.gosrjapan.com/>

ドイツの銘銃『H&K P7M8』をグアムで堪能!!

ドイツのH&K社といえば、高品質かつ優れたメカニズムの製品造りをモットーとしているメーカーである。日本はもちろん世界各国の公安関係、ミリタリーで採用されていることからその優秀さは確かだ。数多くのモデルを世に送り出しているH&K社だが、ほかのメーカーでは考えつかないような独創性に富んだメカニズムも数多く発表している。今回グアムで実銃射撃を行った『H&K P7M8』もそんな独創的なアイデアが盛り込まれたモデルのひとつだ。

H&K社がP7M8を発表したのは1976年のこと。当時、西ドイツ警察の制式採用トライアルに参加するためであった。このトライアルに見事合格し、ワルサーP5やSIG SAUER P6 (P225) と

ともに制式採用される。

採用当初こそPSP (Polizei Selbstlade-Pistole) と呼ばれていたが、トライアルの際に警察側が命名したP7が商品名として採用され、一般ユーザーの間にも広まった。

グリップ前面に配した「スクイズコッカー・メカニズム」のため、一般的なハンドガンにくらべてグリップ周りが太く、全体的にズングリとしたフォルムとなっている。見た目的には無骨というかマッチョなフォルムが印象的なモデルである。

この「スクイズコッカー」というメカニズムは、P7シリーズ独特のものであり、ほかには採用されていない。機能性、実用性ともに優れたメカニズムなのだが、使いこなすまでに慣れが必

要なうえ、グリップが太くて握りにくくなるなどといった点で、ほかには採用されなかったようである。

基本的なハンドガンの場合、トリガーを引き絞れば弾が発射される。しかし、P7の場合はスクイズコック・レバーを握り込まなければ弾は出ない。このスクイズコッカーというメカニズムは、ハンマーのcockとセフティの解除をひとつの操作で可能にするメカニズムなのだ。グリップ前面に設けられたスクイズコッカー・レバーを握り込むことで、ストライカーが後退し、シングルアクション同様の軽くて滑らかなトリガープルを可能とする。

シングルアクション・オートの場合、一般的にcock & ロックが基本となる。このメカニズムは、セフティを解



ノッペリとしたシンプルなマズルフェイス。良質なスチール材から削り出されたスライドは、その精度を失なうことなく、変わらない美しさを保っている。



ひと昔前のガンマニアにとってはとても馴染み深いモデルがこの「H&K P7M8」だろう。現在では製造中止となったこのモデルがグアムで撃てるのだから、よい時代になったものである。

除するだけで初弾を撃てるという手軽さが魅力だ。だが反面、慣れない者が扱おうと、暴発しかねない危険極まりないシロモノとなる。ダブルアクション・オートはそういった不安はないものの、初弾までの発射にわずかなタイムラグが生じてしまう。双方のよいところを融合させたのがスクイズコッカーなのだ。

ダブルアクションの安全性にシングルアクションの機能性を併せ持ったメカニズム。優れたメカニズムではあるが、一般的にはならなかったことを考えると、結局はグリップの太さや慣れを必要とする辺りにその理由はあったのだろう。

このほかにもP7には特徴的なメカニズムが採用されている。それが「ガ

ス・ディレイド・ブローバック」である。これは、発射の際に発生したガスがスライド内に設けられたシリンダへと送られ、その圧力によってスライドの後退スピードを抑制するメカニズム。圧力によってスライドの後退を遅らせることによって、発射ガスのエネルギーを効率よく使い切ることが可能となる。ショートリコイルは、バレルがティルトすることでチェンバー内の圧力の開放を遅らせているが、それと同様の作用を発生させようと考えられたメカニズムがガス・ディレイド・システムなのだ。ガスの圧力を利用しているため、シリンダ内に発射カスが溜まりやすく、定期的なクリーニングが必要になるものの、構造がシンプルなため、メンテナンスは非常にラクである。



シンプルかつ洗練されたデザインは、30年以上経過した今でもまったく色褪せることはない。



この夏、生で観る

自衛隊

陸自駐屯地の歩き方 2012年夏・秋

陸上自衛隊では、国民の理解を得るため、駐屯地記念行事として一般開放を実施している。今回は"駐屯地祭"として親しまれる自衛隊に生で触れることの出来る機会の楽しみ方から、その内容や開催日時を詳解する!!

写真・取材/菊池雅之

これが日本のミリタリーイベントだ!



4月に入り、陸自イベントシーズンが幕を開けた。すでに多くの駐屯地で記念行事が行なわれており、すでに足を運んだ読者も多いことだろう。

今回はダイジェストとしてまず4月22日に神町駐屯地（山形県）で行なわれた第6師団創立50周年記念行事を見ていこう。第6師団はテロやゲリラによる不正規戦から国際平和協力などに迅速に対応するために即応近代化師団に改編された。50年の節目を向かえ

た今年は例年よりも規模を拡大し、戦車等車両約350輛、人員約1,500人が参加。中でも第20普通科連隊が主となり繰り広げられた戦闘訓練展示は大迫力。第6戦車大隊の74式戦車もこれでもかと空包射撃を実施した。

4月21日に行なわれた松本駐屯地祭こと松本駐屯地創設62周年記念行事（長野県）では、アルプスレスキュー2012と銘打った災害派遣をテーマとした訓練展示を実施。消防や警察、

医療機関なども参加した本格的な訓練展示となった。この駐屯地に所在する第13普通科連隊は日本屈指の山岳レンジャー部隊を有しており、災害発生時にはその活躍が多いに期待されている。

このようにすべての駐屯地において、記念行事が行なわれる。観閲行進、訓練展示と2部構成で行なわれるところがほとんどである。



第6師団創設50周年記念式典

松本駐屯地祭



①駐屯地祭の醍醐味は「訓練展示」。中でも戦闘訓練を行なう駐屯地はハズせない。写真は第6戦車大隊の74式戦車による空包射撃。胸に響く重低音はぜひとも体感したい。
②整列する第6師団隷下の各普通科連隊。立っただけでも絵になる男たち!! ③駐屯地内では車輛展示として装備品が並べられる。記念撮影も自由。

④アルプスレスキュー2012のシーン。災害派遣部隊を被災地へと移動させるために81式自走架柱橋が橋を架けているところ。⑤高機動車が続々と行進。⑥写真の指揮官が手にしているのは9mm機関拳銃。配備数が少ないため、なかなかお目にかかることが出来ない貴重な装備品である。⑦ヘリからのリベリング降下。こうした訓練が観客席の目の前で繰り広げられていく